

福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

 神奈川県小田原市飯田岡二五七
 電話 0465(36)2755

「三密」がお大師様の教え？

今年の流行語大賞に「三密」が選ばれました。新型コロナウイルス感染症対策として、感染症対策委員会が（密閉・密集・密接）を避ける行動が必要であるとして提唱したものです。この三密回避から派生して、ソーシャルディスタンス、リモートワーク、オンライン授業、リモート○○、オンライン○○、等々人と対面しない社会が広まりました。感染症が人との接触により拡大することが明らかであり、当然のことです。しかしこの対面しない社会が、感染症が終息した後も恒常化してしまうのではないか不安です。

私は、新型コロナウイルス感染症が発症する前までは、対面社会を推

奨して来ました。ITやPCの発達により対面社会が薄れていくことにより、人間関係が希薄化し「情」という言葉が消え、仏教の根本理念である「慈悲」心が消え、殺伐とした人間社会を危惧したからであります。感染症により、対面社会がストップしたことはやむを得ませんが、この様な状況を生み出したことは、感染症が身体的悪疫に加え社会的悪疫を広める、人間にとって極悪な敵であるということです。

さて「三密」という言葉ですが、弘法大師の重要な教えの一つに「三密」があります。勿論、先の流行語大賞に使われた意味とは全く異なる言葉として教えられています。

弘法大師の説かれる「三密」とは、身密（しんみつ）、口密（くみつ）、意密（いみつ）の三つで、これは仏様の身体、仏様の言葉、仏様の心の三つを表しています。仏様の身や言葉や心は奥深く深秘であるので「密」という訳です。お大師様は私達誰もが、人間としての身体、言葉、心（三業）を瞬時にして三密にすることに、この身このままで仏になれると説かれています。お大師様の教えの中心をなす「即身成仏」思想であります。

コロナで最初に三密という言葉が出たときは、嫌われ言葉として使われているので、あまり良い感じはしませんでした。日本中の大師信者は同じ思いで聞いたことと思います。しかし、本来の密閉、密集、密接は、人間関係を構築していく上では大切な要素であり、人間社会にとって必要不可欠なものであります。感染症が終息した後は、大いに三密を介して対面社会を推し進め、より良い社会を取り戻したいと思えます。

今こそ密教

新型コロナウイルス感染症と宗教



新型コロナウイルス感染症が拡大しつつある中で年末年始を迎えようとしています。令和二年は新型コロナウイルスで幕を開け新型コロナウイルスで終わろうとしています。

発症当時誰もがこのような状況になるのを想像出来ませんでした。感染症の専門医でも難しかったようであり、それは、それほど新しい感染症の出現は厄介なものであります。

しかし、人類はこの感染症との闘いの歴史でもありました。世界中で幾度となく多くの犠牲を出したペスト、日本でも神代の時代から繰り返して流行った天然痘、他にも多くの感染症の流行が繰り返されてきました。その原因のウイルスの発見は19世紀になってからであります。つまり感染症の医学的治療が成されるよう

になったのは百数十年前からの事です。それまでは原因が分からない病気で多くの命が失われました。

日本では、荒ぶる神のいかりや怨霊のたたりとして、それらを鎮めるため神仏に祈りを捧げ疫病退散を願いました。大仏建立や祇園祭をはじめとする祀りの多くが、疫病の流行を起因とすることは知られています。直接的な効果は別として、少なからず人々に癒やしを与えた事は大きかったものと思われれます。千数百年に亘って疫病と闘ってきたのは神仏への祈願であったのです。

近年、医学的治療が進歩し、神仏への疫病退散祈願はその座を医学界へ譲った感がありますが、宗教が果たす役割は無いのでしょうか。宗教の共通する理念は人々の幸せを願

うものであります。弘法大師空海はこの理想実現の為に「鎮護国家」「广度衆生」を掲げて真言宗を開きました。人々の幸せは国が平穏で穏やかであること。そして一人として不幸な人がいなくなることを。

今新型コロナウイルス感染症により、国中がざわめき平穏さを失い、人々は様々な分野で苦勞を強いられています。弘法大師の掲げる理想と反対の世の中に突き進んでいます。今こそ宗教の番です。宗教とは何かと言いますと信仰心であります。信仰心なき宗教はあり得ません。問題は何を信仰するかです。

近年、日本人は信仰心をおろそかにして生きてきました。急に信仰心を持つと言われても無理なことです。無理して信仰してもそれは偽物です。自然に信仰心が生まれてくる環境の中にあって、初めて真の信仰心が生まれてくるものと思えます。私達がその環境を疎かにしてきたことは、大変な過ちでした。信仰心による幸せを自ら捨てて来たのです。



今、出来ることは後世の（身近では子や孫）人々のために、信仰心が芽生える環境を少しづつでも整えることです。それは各人が信仰ある生活とはどんなものなのか、思い描けるもので良いのです。例えば親に対する感謝の気持ちを表す行動をする。これは先祖を敬い神仏に手を合わせる環境となります。一つでも思い描いたら実践すること。自分の為にはならなくても、次の疫病が流行する時は、きつと力を発揮することでしょう。

写経のお勧め

今年度、年明けからスタートした「写経会」が新型コロナウイルス感染症予防のため数回で中止となりました。再開は感染症が収まった頃、様子を見て始めたいと思いますので、再開のお知らせが届くまでしばらくお待ち下さい。

ステイホームで巣ごもり状態がまだまだ続く様です。家での時間を有効に使うのに、写経はとても素晴らしい修養の習い事かと思えます。

写経の功德は「お経」を書写するところにあります。「お経」は仏様の教えが説かれているので、読み書きすることによりお経の功德が自然に染み込んでくると言われます。無心に読み書きすることが大切であることの由縁です。上手に書く必要もありませんし意味が分からなくても良いのです。ただひたすら無心で写経することが大切です。精神統一することにより身心の安定を保つこともできます。

写経用紙が必要な方はお申し込み下さい。一枚五十円(実費)でお分け致します。

お願い

令和二年は、新型コロナウイルス感染症の影響でご参詣の制限もあり、檀信徒の皆様には諸々ご不自由をおかけ致しました。特に維持管理費の納入につきましては、お気を煩わせました。未納の方は暮れのお参り時にご持参下さい。

駐車場について

駐車場整備により駐車スペースは多くなりましたが、施餓鬼や盆の合同供養、護摩の際な頂きますようお願い申し上げます。またその際は詰め込み駐車になりますこと、ご理解下さい。

護摩供養会

(申込み受付中)

恒例の新年厄除け護摩を二月八日の午後三時より修行致します。今回は新型コロナウイルス感染症予防の為住職のみにて修行し、檀信徒の方の参列は中止とさせて頂きます。護摩札は二月九日以降、都合の良い日に受け取りにお出下さい。

今回の護摩は皆様の祈願成就は勿論ですが、他に新型コロナウイルス感染症の早期終息を祈願致します。



祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄除け)、

身体健全、病魔退散、家内安全、

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

学業成就、合格祈願、安産祈願、

子授け祈願、その他

申込み・・・一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755

FAX 0465(37) 6688

令和三年 厄年

男性(大厄)

前厄 昭和五十六年生まれ

本厄 昭和五十五年生まれ

後厄 昭和五十四年生まれ

(厄) 平成九年、

昭和三十 六年生まれ

女性(大厄)

前厄 昭和六十五年生まれ

本厄 昭和六十四年生まれ

後厄 昭和六十三年生まれ

(厄) 平成十五年、

昭和六十年生まれ

仏教相談

誰でも気軽にどうぞ

勿論檀家さん以外の方でも

仏事に関して、

どうしたらよいのか?

どんな些細なことでも

ご相談下さい。勿論無料。

電話0465(36)2755

福田寺

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より1時まで、住職により新年のご祈祷が修法されます。ご自由に参加ください。

暮れのお参り



通常通りお参り下さい。但し出来るだけ密を避けるため日にちに余裕をもってお参り下さい。

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。